

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092800145		
法人名	ケア・サービス 株式会社		
事業所名	グループホーム かえで中間		
所在地	〒809-0003 福岡県中間市上底井野1675番地1 Tel 093-246-5515		
自己評価作成日	令和02年11月16日	評価結果確定日	令和02年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和2年4月に開設したグループホームです。
 利用者が日中集うリビングには掃き出しの大きな窓があり、南向きで日当たりもよく、松やつつじ、金木犀など、四季折々の日本庭園を望むことができます。
 「看護小規模多機能型居宅介護 りんどう」を併設し、グループホーム内にも看護職員を配置し、利用者様の日々の健康不安や心身の異変などに、手厚い対応を行っています。
 当法人の理念は、「ぬくもり、やさしさ、安心」です。
 利用者様中心のケアを、職員全員でご提供できるように努めていきます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	令和02年12月10日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「かえで中間」は松やつつじ、金木犀が見事な日本庭園の中で、看護小規模多機能型居宅介護と併設で、半年前に開設した定員9名のグループホームである。「ぬくもり、やさしさ、安心」を理念の柱とし、利用者が重度化しても最後まで安心して生活できる「終の棲家」である。看護師が常勤し、往診体制が整ったホームドクターと連携し、小さな変化も見逃さず、24時間安心の医療体制が整っている。食材を取り寄せ、職員が交代で作る手料理は、味や彩り、盛り付けに拘り、利用者と職員が談笑しながら食事する様子は楽しそうで食欲増進に繋げている。コロナ感染症予防対策で、外出や地域交流が休止状態であるが、庭園の中を散歩したり、ドライブに出かけ、利用者の気分転換を図っている。職員は、利用者に寄り添い優しく話しかけ、利用者が明るい笑顔を取り戻し、見守る家族からは、「ここを選んで良かった」と感謝の気持ちに包まれ、利用者や家族と信頼関係が始まっているグループホーム「かえで中間」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ぬくもり・やさしさ・安心」を理念に、職員は介護経験が有る無しに関わらず、利用者中心のケアを一緒に作るよう心掛けている	理念を見やすい場所に掲示し、会議や朝の申し送り時に理念の意義や目的を職員間で話し合い、「ぬくもり・やさしさ・安心」を常に意識して、利用者本位の介護サービスに、職員全員で取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事やイベントに参加したり、組内で定期的に発行される広報誌をいただいたり、地元へ根付いた生活の場所として交流を目指している	コロナ感染症予防対策のため、行事やイベントに参加する機会が少なくなっているが、地域の広報誌で、地域情報を得て、参加出来る行事には参加している。地域住民との交流を図るため、買い物や神社に出かけ挨拶や立ち話が始まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	天候のいいときは、利用者とともに近隣を散歩し、お宮参りや買い物など、日常生活を行うことで、地元の方も認知症の理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の開催を延期している中、議員の方々に持ち回り資料を配布し、現在のグループホームかえで中間の現状報告としている	コロナ感染症予防対策のため、会議が延期になっているが、ホームの運営や取り組み、利用者情報を記載した議事録を参加委員に配布し、電話等で地域情報を聴き取っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政とこまめに連絡を取ることで、行政独自のサービスや、他の事業所のサービスやケアの現状を知ることができる	管理者は、ホームの空き状況や事故等を行政に報告し、介護の疑問点や困難事例等の相談を行い行政と連携を図っている。運営推進会議に行政が参加し、ホームの現状を理解して、アドバイスや情報を提供して貰い、協力関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、防犯上夜勤者のみになった時点で施錠し、昼間は常に開錠している ベッドの4点柵使用や車いすの誤った使用も、身体拘束につながることを、全職員で共通の認識として学ぶ	身体拘束の職員研修が義務化されたのを機会に、職員会議や内部研修の中で身体拘束が利用者にも与える影響を職員間で話し合い、具体的な禁止行為の事例を挙げて検証し、身体拘束をしない介護の実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行き過ぎた介護や大声での声掛け、過剰な服薬による心身の自由を奪うなど、介護者として知っておくべき虐待を全職員で把握するよう、社内・社外研修を通して実施する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一人一人が守られるべき日常生活を送る権利について、ミーティングを通して全職員が学べるように努める	職員会議や内部研修会の中で、権利擁護の制度について学ぶ機会を得て、職員はある程度制度について、理解が出来ている。成年後見制度の資料やパンフレットを用意して、利用者や家族から相談があれば、分かり易く説明し、利用者の権利が損なわれないように取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を交わす前に、現在の利用者の状態、症状を話し合い、グループホームのことを十分にご理解していただけるよう利用者及びご家族に館内の見学と案内、説明を行っている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス提供時に伺う利用者の発言、ご家族からは、運営推進会議に家族代表としての意見や、面会時の施設への要望など、貴重な意見として全職員が把握し、今後の改善に努めている	日常介護の中で職員は、利用者の思いや意向を聴き取り、家族面会時に利用者の健康状態や暮らし振り、希望等を報告し、家族からは、意見や要望、心配な事等を聴き取り、ホーム運営や利用者の日常介護に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や要望が伝えやすいように、出勤日は必ず職員に声をかけ、些細なことでも意見や要望を表出しやすい雰囲気作りを努めている	毎月職員会議を開催し、管理者は、職員が話し易い雰囲気をつくり、意見や要望、提案等を引き出し、ホーム運営や業務改善に反映させている。また、毎日の申し送り時に職員間で気付きや心配な事を話し合い、管理者に相談して解決に向けた取り組みを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の経験やスキル、家庭の事情等を把握し、職員が働きやすい状況になるよう、適宜勤務状況を確認し条件の見直しを行っている		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	現在、20代から60代まで、幅広い年齢層の職員が在籍しており、介護未経験者、有資格者、無資格者、看護職員、介護職員が、協力しながら勤務にあたっている 職員採用は、年齢や性格、経験や資格の有無で判別することはない	職員の募集は年齢や性別、経験等の制限はなく、人柄や働く意欲を優先している。採用後は外部や内部の研修に参加して、介護技術の向上に取り組んでいる。また、管理者は、職員の特技や能力を把握して、適材適所に役割分担し働き易い職場を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	不定期のミーティングや、申し送りノートを通して、人権の尊重や接遇の大切さを、全職員の共通の認識になるよう、勉強の機会を増やしていく	利用者の人権を尊重する介護の在り方について、職員会議や朝の申し送り時に話し合い、言葉遣いや対応に注意し、利用者の尊厳を尊重する介護の実践に取り組んでいる。また、「ぬくもり、やさしさ、安心」を理念の柱として日常介護に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内・社外の研修やミーティングを通して、一人一人の職歴、経験を活かしながら全員のケア力が向上するように努める		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	常に職員が働きやすい環境づくりを心掛け、ほかの事業所との情報交換を行うことで、自施設だけでなく地域全体の介護やサービスを把握し、互いに向上するように努める		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活歴や趣味、嗜好をうかがいながら、現在の生活において、困難になっていることや心配や不安に感じていることを把握するようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現時点でご家族から見たご本人の不自由なこと、生活において困難なこと、家族にとっての不安な点や今後の展望などをうかがうようにする		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期に伺った、不自由なこと、困難なことへの支援をいくつか提案し、優先順位をつけ、多角的な視点で対応を図るようにする		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人はこれからホームで暮らすことを常に念頭に置き、職員もその生活空間においては「ともに暮らす者」という視点で接するように心がける		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族が長い時間をかけて築いた関係に配慮し、面会が困難な時は電話対応や手紙での交流を支援し、関係の維持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や旧友などの電話や訪問に関しては、ご家族の承諾を得て、繋ぐようにしている	コロナ対策で日常の面会や外出がうまくできていないが、電話や事業所便りで利用者の状況を家族に報告し、家族の質問や要望には、丁寧に答えている。また、ホームで仲良くなった利用者同士の関係や職員との信頼関係も大切にしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や生活歴などを把握し、気の合う他の利用者とともに食事をしたりレクリエーションなどの機会を同じ日に実施するなど、孤独にならない生活を送れるような空間づくりに努めている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用途中入院治療が必要な方は、随時状況を確認し、退院後も医療支援が必要な方に関しては、病院、ご家族と相談の上、併設の看護小規模多機能型居宅介護施設の利用を提供している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からコミュニケーションを通して、一人一人の生活リズムや嗜好を把握し、職員で共有できるように努める 意思の表出が困難な方は、表情や雰囲気を知察したり、ご家族に意見をうかがうようにしている	担当職員は、ホームの暮らしの中から利用者の思いや意向を把握し、実現に向けて取り組んでいる。意向表出が困難な利用者には、家族に相談したり、職員間で話し合い、利用者の思いを汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴の違いを念頭に、職員は本人やご家族からの情報や、以前利用していた介護サービスや入院・通院治療をしていた病院関係などの情報を共有する		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現時点での本人の生活に必要な支援を過不足なく把握するため、以前の情報データだけに頼らず、グループホームでの生活状態や心身状態をアセスメントを実施するようにしている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議の開催が困難な場合、日ごろの気づきや本人の発言の申し送りや病院受診時の情報、ご家族の来所時の話をまとめ、ケアプランに生かすようにしている	利用者や家族の意見や要望を担当職員が聴き取り、担当者会議の中で検討し、利用者本位の介護計画を定期的に作成している。利用者の重度化に合わせて家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活支援の中で気づいた変化や本人の表情や発言を職員間で共有し、これからのケアプランに生かせるようアセスメントに繋げるようにする		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて面会に来られた家族の送りや、必要物品をご家族に了承を得て代理購入したり、必要なサービスを常に提供できるように努めている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	知人の訪問や、近所の神社の参拝、他の事業所へのドライブなど、心身の活気につながる行事を取り入れるようにしている		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医への受診同行、必要に応じての専門科の紹介、希望によってはホームドクターの往診支援など、個々の心身の健康維持を目指している	入居前に利用者や家族と話し合い、主治医を決めている。以前からのかかりつけ医の受診は、職員が対応し、結果を家族に報告している。ホームドクターによる定期的な往診と看護師、介護職員が連携し、利用者の健康管理は充実している。併設の看多機の協力で24時間安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師が一名配置され、個々の服薬種類や身体の現状、病院受診などを把握している 骨粗しょう症の治療に必要な自己注射の実施は、看護師が対応している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに病院に情報提供を行い、必要物品の準備など、ご家族だけでは困難な支援を行うようにしている 入院中も定期的に本人の回復状況を病院に確認し、退院に向けての展望や問題点などを把握するようにしている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現時点でグループホームでの看取りの予定はないが、入退院を繰り返して重度化がみられる場合には、ご家族とは早めに話し合いの場を設け、医療ニーズに応じて併設している看多機施設への利用変更を提案し、希望があれば終末期までの繋がるケアを支援している	契約時にホームで出来る支援を利用者や家族に説明し、承諾を得ている。利用者の重度化が進むと、併設の看多機への転居も視野に入れて家族と話し合い、利用者の終末期が安心して過ごせる環境整備に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護が未経験の職員もいるため、日々のケアの中で少しずつ学ぶ機会を作り、夜勤・日勤・常勤・非常勤に関わらず、全員が急変時の対応ができるようにしたい		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害などの急変時に向け、水と食料の備蓄を行っている また、今後は近隣住民との協力体制を築くとともに、全職員の避難に対するスキルアップを図りたい	非常災害を想定して食料や飲料水、非常用備品の備蓄を用意している。	非常災害を想定した避難訓練を定期的実施することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	開所時から、全体ミーティングなどで、利用者も職員も一人一人のあるべき人権を尊重できるよう、機会があるごとに職員全員に接遇への姿勢を培うように心がけている	利用者のプライバシーを守る介護サービスについて、職員会議や内部研修の中で話し合い、利用者の個性や生活習慣に配慮したサービス提供に取り組んでいる。また、言葉遣いに注意し、あからさまな介護にならない支援に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や意思の表出が可能な限り、本人が選択できる生活のゆとりを提供できるよう心掛けている 認知症が深くなり、自分の意思が表出できない方は、状況を踏まえて安全を第一の支援を検討する		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活パターンや嗜好を考慮し、就寝、起床、食事提供の時間を何度も見直し、希望の方には適宜居室での休息や庭の散歩など、できる限りその人に合った生活支援を目指している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、起床時のモーニングケアにて、髪を整えたり、定期的に来る訪問理美容の活用や、ご家族が用意したご本人に合う洋服の身だしなみを支援している		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	バランスの良いメニューを念頭に、麺が好きの方、酸味が苦手な方など、個人個人の好みを考慮し、食事を提供している	利用者が楽しみにしている食事は、職員が交代で調理し、利用者の好みや形状に配慮して、食べやすい料理を提供し、楽しい雰囲気の中で、利用者の食欲増進に取り組み、健康の源になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量、水分量を記録に残しチェックしている 食思低下の方は、まずは摂取しやすい高カロリー飲料やゼリーなど、本人が無理なく摂取できる食事形態に変え、摂取時間も本人の状態に合わせて提供している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でケアができる方は、洗面所で椅子に腰かけたり立位で、職員立ち合いにて、主に夕食後に口腔ケアを実施している		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用開始時は特に、昼夜の排泄状況を記録に残し、排尿・排便パターンを把握する 必要に応じて服薬にて調整を検討する時もあるが、過剰な干渉は避け、できる限りタイミングを計ってのトイレ誘導や排せつ用品の選択を行うようにしている	職員は利用者の排泄パターンや生活習慣を把握し、早めの声掛けや誘導で排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。夜間は、利用者の希望を聴きながら、トイレ誘導やオムツ、リハビリパンツ、パットを利用者に合わせて使用し、快適な暮らしの支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘や下痢を繰り返すときは、排せつ記録を確認し、消化のいい食事形態と、適した水分摂取を提供するようにしている 午前と午後、軽運動を実施し、できる限り自己にて自然排便ができるように努めている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の体調や病院受診などを考慮し、気持ちよくゆとりをもって入浴できるように設定しているため、最低週2回の入浴を実施し、職員と利用者が密にコミュニケーションをとりながら個浴で楽しい時間になっている	入浴は利用者の希望や体調に合わせて対応し、湯船にゆっくり浸かってもらい、利用者と職員が一对一で会話できる楽しい時間になる様に取り組んでいる。入浴が困難な利用者は、清拭や足浴に変更し、清潔保持と、健康チェックが出来るように支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に適した休息を提供するために、起床・就寝の時間を一律にせず、生活状況に応じて昼の休息や居室の温度管理の調整を行っている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常勤の看護師が中心となって、服薬管理や個々の体調変化からくる与薬の調整を行っている 職員の中には、介護の経験が初めての者もあり、薬の効能や副作用については、これから社内研修などで知識を深めていく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞折りや洗濯ものをたたむ様な軽作業と一緒に 行なったり、散歩が日課の方、テレビ番組の懐メロ や唱歌を唄うのが好きな方、居室で一人でテレビを 見たり本を読むのが好きな方など、一人一人の時 間の過ごし方を支援している		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援に努めている。又、普段は行 けないような場所でも、本人の希望を把握し、家 族や地域の人々と協力しながら出かけられるよ うに支援している	感染症予防の観点から、頻繁に外出支援は行っ ていないが、計画的に、できる限り密集を避けら れるような花見のバスハイクや、近隣の散歩など を実施している また、行きつけの美容室や法事への出席など、ご 家族の協力のもと行なっている	コロナ対策のため、花見やバスハイク、ホーム 周辺を散歩する等、利用者の気分転換に繋げ ている。家族の協力を得て、行きつけの美容 院に出かけたり、自宅に帰る等、利用者の生 きがいに関わる外出の支援に取り組んでい る。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理 解しており、一人ひとりの希望や力に 応じて、お金を所持したり使えるように 支援している	現在、外出が少なくお金を 使う機会が無いが、個人 でお金を所持している 利用者が数人おり、面 会時、本人からご家 族に買い物をお願い したり、子供にお小 遣いとして手渡すこ とがある		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるよ うに支援している	他の病院に入院中の家 族に書いた手紙を預か ったり、電話にてご家 族の声が聞きたいと の希望には、すべて 対応をしている		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食 堂、浴室、トイレ等)が、利用者にと って不快や混乱をまねくような刺 激(音、光、色、広さ、温度など)が ないように配慮し、生活感や季節感 を採り入れて、居心地よく過ごせ るような工夫をしている	24時間空調を行い、換 気ができるようにし、 玄関や廊下にもエア コンを設置し、施設 内を移動した際、温 度差を感じないように している リビングの掃き出し の窓は南向きで日 当たりもよく、中 庭を望む為、松や つつじの木々を眺 めることができる	建物全館にバリア フリーを設置し、音 や照明、温度や湿 度、換気に注意し て、利用者が穏や かに暮らせる共 用空間である。南 向きのリビングル ームの窓から、中 庭の松やつつじ、 季節の花を眺め ながら、季節の 変化を利用者の 五感で感じ取っ ている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所 づくり 共用空間の中で、独りになれたり、 気の合った利用者同士で思い思 いに過ごせるような居場所の工 夫をしている	リビングでくつろぐ ときは、窓辺で椅子 に座り外を眺める 方や、気の合う方 と同じテーブルで 談笑する方、ソ ファーに座り、ゆ っくりテレビを見 たりなど、ひとり ひとりが好むよう に過ごしている		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配 慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本 人や家族と相談し ながら、使い慣 れたものや好み のものを活か して、本人が居 心地よく過ご せるような工 夫をしている	居室内のしつら えは、本人のADL に合わせてベ ッドの向きを 変えたり、家 で使い慣れた 家具を持ち込 んだり、家族 が用意した写 真を飾ったり し、できる限 り自分の部屋 としてくつろ げる空間にな るように支 援している	利用者が慣れ 親しんだ家具 や寝具、生活 必需品や家 族の写真等 を持ち込ん で、自宅と 違和感の ない雰 囲気にし て、利用 者が安 心して暮 らせる環 境整備に 取り組み、 明るくて 清潔な居 室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環 境づくり 建物内部は一人ひとりの「できるこ と」「わかるこ と」を活かして、安全かつ できるだけ自立した生 活が送れるように工夫している	駐車場から施設 内まで全てバ リアフリーで、 居室やリ ビングは、全 て途中から ゆっくり閉 まる扉で、指 などを挟ま ないように している 生活の中 で移動が困 難なところ が無いよう 手すりを設 置し、トイレ やリビング への移動を 安全に している		